

平成26年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT26125 和漢薬ってこんなに身近にあったんだ！ ～杉谷の里山で和漢薬体験～



開催日	平成26年8月8日(金) 平成26年8月9日(土)
実施機関	富山大学 (実施場所) 和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館
実施代表者	伏見 裕利 (所属・職名) (和漢医薬学総合研究所・特命 准教授)
受講生	中学生8名 高校生14名
関連URL	http://shiryokanhp.inm.u-toyama.ac.jp/mmmw/addition/add_note.html

【実施内容】

【工夫した点】

受講生どうしはほとんど初対面の生徒ばかりなので、アイスブレイクになるような自己紹介を行って、受講生の緊張をほぐすよう努めた。
和漢薬を身近に感じてもらうために、可能な限り、耳にしたことのある植物や普段口にしてしている食物などを例示して解説した。また、より記憶に残りやすいプログラムにするため、味覚や嗅覚を含め、五感をフルに使って和漢薬に触れてもらった。

薬草ブレンドティー作りでは、3グループに分かれて、自分たちで選んだ薬草・ハーブを混ぜてオリジナルブレンドを完成させ、どのグループの作品が最もおいしかったかシールによる投票を行ってコンペのように進めた。その結果、会話が弾み、受講者間の交流が最も活発なプログラムになった。

受講生が抱く「大学」や「和漢薬」に対する距離感を縮めるねらいで、学部生を実施協力者として配置し、ランチオンやグループ活動中に受講生と交流してもらった。また、薬草観察会でも1人1種類の薬草解説を担当してもらった。学部生の橋渡しによって、受講生はしだいに打ち解けていった。

【当日のスケジュール】

時間	内容(1日目、2日目とも同一日程)
9:30～10:00	受付(民族薬物資料館1F)
10:00～10:30	開講式(あいさつ、オリエンテーション、自己紹介、科研費の説明)
10:30～11:00	①講義「民間薬と世界の民族薬物」
11:10～12:00	②実習「民族薬物資料館 展示室見学」
12:00～13:00	昼食休憩(薬膳弁当)
13:00～13:30	③講義「身近な分子のカタチ」
13:40～14:10	④実習「桂枝湯と葛根湯の選別・鑑定」
14:20～15:10	⑤実習「薬草観察会」
15:20～15:50	⑥実習「薬草ブレンドティー作り」
15:50～16:10	クッキータイム(お香体験)
16:10～16:30	学習の振り返り&発表
16:30～16:50	修了式(アンケート記入、和漢薬博士号授与、あいさつ)
16:50	終了・解散

【実施の様子】



〈科研費の説明〉



〈自己紹介〉



〈講義「民間薬と世界の民族薬物」〉
 伝統医学の歴史や、日本やその他の国の民間薬について、用途や成分などのお話を聞きました。



〈民族薬物資料館内の見学〉
 センプリの苦さを体験。あまりに苦すぎて思わず笑ってしまいます……！



〈薬膳弁当で会食〉
 普段食べている食材の薬味・薬性を知ること、いつもの食事で病気を未然に防ぐことができます。



〈講義「身近な分子のカタチ」〉
 薬も身の回りのものもいろんな分子が集まってできています。自分で分子模型作りに挑戦しました。



〈桂枝湯と葛根湯の選別・鑑定〉
 漢方の基本方剤である「桂枝湯」と「葛根湯」に配合されている生薬を、においや形、味を比べて鑑別しました。



〈薬草観察会〉
 杉谷キャンパスは少し歩くとすぐに薬草が見つかります。杜仲の葉をちぎって糸を引く成分を確認しました。



〈薬草ブレンドティー作り〉
 班ごとに分かれて、自分たちで相談して選んだ数種類の薬草・ハーブを煎じました。



〈クッキータイム〉
 お香(沈香)を「聞き」ながら、ブレンドティーと葛ぱりんをいただきました。ちょっと大人なひととき。

【事務局との協力体制】

- ・研究振興部研究振興課が、広報手段の提案、振興会との連絡調整、提出書類の確認・修正を行った。
- ・医薬系事務部研究協力課が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。また当日の運営にも協力した。
- ・総務部広報課がニュースリリースによって県内の報道機関に情報提供した。また、大学のHPのイベント情報に本事業について掲載した。

【広報活動】

- ・実施者(代表者、分担者)が富山県庁、富山県教育委員会、富山県科学博物館を訪問し、本事業についてPRするとともに、ポスターの掲示を依頼した。
- ・富山県商工労働部商工企画課による「とやま科学技術週間のご案内」に本事業の募集要項を掲載した。
- ・県内15市町村教育委員会に依頼し、県内すべての中学校にポスターとチラシの配布を行った。高等学校には直接郵送した。その他、県内の図書館など、公共施設にポスターを郵送し、掲示を依頼した。
- ・学内電子掲示板に本事業の募集案内とポスターを掲載した。
- ・大学附属病院内の掲示版にポスターを掲示し、チラシを配置した。

【安全配慮】

- ・事前に食物アレルギー調査票を記入していただき、受講生の実態を把握した。
- ・薬草ブレンドティー作りの実習では受講生を3グループに分けて、それぞれのグループに実施者と協力者を配置し、事故の起こらないように配慮した。
- ・薬草ブレンドティー作りは実施協力者ととも予備実習を行い、器具の取り扱いや煎じ方について確認した。
- ・受講生と実施協力者を短期の傷害保険に加入させた。

【今後の発展性、課題】

- ・開催日が平日と土曜各1日ずつであり、平日の受講者が少なかつたため、開催日を時期を含めて再検討したい。
- ・2日間とも雨だったため、屋外実習である薬草観察会が、思うように展開できなかった。とくに2日目は降り方が激しく、観察できた薬草が少なかつたため、早く切り上げざるを得なかつた。今回は、その分薬草ブレンドティーの時間を長くとりなどして対応したが、屋外活動の場合は、雨天時の代替案も考えておきたい。
- ・薬草ブレンドティー作りでは、薬草1つひとつの味を確認する場がなかつたため、出来上がりをイメージできなかつた受講生が多かつた。次に実施する場合は、1種類の薬草を煎じたものを味見できるよう事前に準備しておくといわれる。
- ・内容によっては時間的に余裕がなくなるものもあつたため、講義・実習の時間を長めにとることを検討したい。

【実施分担者】

柴原 直利	和漢医薬学総合研究所・教授
済木 育夫	和漢医薬学総合研究所・教授
梅崎 雅人	和漢医薬学総合研究所・特命准教授
林 珠央	和漢医薬学総合研究所・技術補佐員

【実施協力者】 5名

【事務担当者】

石橋 和哉	研究振興部 研究振興課長
河上 紘栄	研究振興部 研究振興課・事務職員
寺脇 誠一	医薬系事務部 研究協力課・課長補佐
小川 千都世	医薬系事務部 研究協力課・係長